

No. 1404

ミレー、コローと巨匠たち展

「ミレー、コローと巨匠たち展がいま埼玉県浦和市にある伊勢丹アートホールで開かれています。この展示会には、ミレー・コローに代表されるバルビゾン派の画家28人の作品、85点が展示されています。フォンテーヌブローの森にあるバルビゾンの村を舞台に活躍した画家たち、日本人の自然観に呼応するようなその作風は高い評価と人気を集めてきました。この展示会は6月2日まで開れています。

日米首脳会談とその周辺

世界の文明と文化、それに富が集められたニューヨーク。しかし、この数年アラブ諸国が石油を武器に台頭してくるのに比例し、アメリカの権威は少しずつ落ちていった。なかでもアメリカの繁栄を象徴した自動車は日本の技術に押しまくられた。クルマ大国日本はアメリカの自動車メーカー再建に協力するため、やむなく輸出を控える自主規制までした。こうして、対日感情がやわらいだ頃、鈴木首相はアメリカに乗り込んだ。首脳会談を前に、まずはニューヨーク見物。前夜の雨もからりと晴れた5月7日、ホワイトハウスでは歓迎式典が行なわれた。カーター前大統領の質素だった時とくらべ、元映画俳優らしく、華やかな式典。

大統領執務室での首脳会談。鈴木首相は大統領の健康を心配していただけに、「回復されてよかった……」と、まずは快気祝いのあいさつからきり出した。会談では、両国が「日米同盟」を強化していくことで合意した。しかし、日米首脳会談が終わるのを待っていたかのように、アメリカ最大の自動車メーカーGMは小型の新車を発表、日本車をけんせいした。

5月12日、衆院・本会議。意気揚々と帰国報告をする鈴木首相。代表質問をする各党。だが、共同声明に「同盟」をうたったことから、政府の足並みは乱れた。伊東外相は責任をとって辞職。鈴木首相は党三役と相談し、園田外務大臣を決定。アメリカの潜水艦が日本の漁船を沈没させたり、日本海での日米合同演習用の船が延縄を切ったり、日米間にいざこざが絶えない今日、その上、今度はライシャワー元駐日大使が「核を積んだアメリカ艦船が日本の港に寄っている」と証言。日本政府に大きな衝撃を与えた。日米首脳会談でより一層深い親頼関係を築くはずだった鈴木首相だったが、首脳会談の結果は思わぬ方向に向っているようだ。